

(別記)

2019 年度若桜町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

若桜町は山間地にあり、日当たり、作土、圃場等の条件も悪く、野菜等の推進が困難となっている。その中で稲作を主体に野菜（白ねぎ、ブロッコリー、アスパラガス）、畜産、果樹等を組み合わせた複合経営による農業生産を行っている。現在、過疎化に伴う農家人口の減少と農業従事者の高齢化は著しく、耕作放棄地が拡大している。また、鳥獣被害の増加や後継者不足等により生産意欲の減退が危惧されている。地域特産物の育成と農地中間管理事業を活用しながら、担い手への農地集積及び集落営農組織の設立により小規模農家の作業負担軽減を図り、耕作放棄地の拡大に歯止めをかけなければならない。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米の需要減が見込まれるが、次の2点に取り組む。

- ・ 農作業受託組織等の育成と作業集約によるコスト削減。
- ・ 中山間の日較差の大きい気象状況を生かした高品質な米生産による若桜米のブランド化の推進。

(2) 大豆

排水良好の地域に作付を推進し、現状の作付面積を維持する。

(4) そば ※県設計配分

- ・ 「そば」は、特産作物の生産拡大と加工品の開発を地域交流組織「吉川ＹＹＣ」等と進め、健康食品として道の駅若桜「桜ん坊」等に販売していく。

(5) エゴマ

- ・ 町のがんばる地域プランを用いて特産品として推進していく作物であり、新設備も導入し環境を整え、販売体制を整える。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

ア 白ねぎ

- ・ 山間地域への導入や既存生産者の増反を進め、いなば地域の主要作物として産地の拡大を図る。

イ 地域特産作物（ブロッコリー、アスパラガス、夏だいこん、小豆、ナタ豆）

- ・ 従来から推進している地域特産作物であり、ブロッコリー、アスパラガス、夏だいこん、小豆に、高齢者でも取り組みやすいナタ豆を加え、引き続き作付拡大を推進し、生産組合での販売やJA等と連携した販売体制の強化を図る。

ウ 直売作物（野菜・花き・花木等）

- ・ 少量多品目の作物が求められる道の駅若桜「桜ん坊」等への出荷量を確保するた

め、直売所向け野菜・花き・花木等の作付拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	136.9	136.7	140.0
大豆	0.3	0.3	0.3
そば	1.5	1.6	2.2
高収益作物	8.4	8.7	10.5
野菜	3.0	2.9	3.5
白ねぎ	1.6	1.5	1.6
ブロッコリー アスパラガス 夏だいこん	1.3	1.3	1.5
ナタ豆	0.1	0.1	0.4
エゴマ	5.3	5.6	6.5
小豆	0.1	0.2	0.5
その他地域振興作物	3.0	2.1	3.0
直売作物 ・野菜 ・花木 ・花き 等	3.0	2.1	3.0
合 計	150.1	149.4	155.9

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	白ねぎ	白ねぎ作付助成	作付面積	(29年度) 1.1ha (30年度) 1.5ha	(2020年度) 1.6ha (2021年度) 1.8ha
2	ブロッコリー アスパラガス 夏だいこん ナタ豆 小豆	高収益作物助成	作付面積	1.5ha 1.6ha	1.9ha 2.0ha
3	直売作物	直売作物作付助成	作付面積	1.3ha 0.3ha	1.8ha 2.0ha
4	エゴマ	エゴマ作付助成	作付面積	5.2ha 4.7ha	6.5ha 7.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

別紙

産地交付金の活用方法の明細

1. 地域農業再生協議会名

若桜町農業再生協議会

2. 活用予定額の総括表

(単位:円)

協議会等名	配分枠 (A+B)		活用予定額
	当初配分 (A)	追加配分 (B)	
若桜町農業再生協議会	1,188,000	1,188,000	1,187,720

(注)追加配分が未定の段階にあつては、該当箇所を空欄により作成することとします。

3. 活用方法

配分枠

1,188,000 円

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価① (円/10a)	面積 (a単位)※3														所要額 ①×② (円)				
				戦略作物							新市場 開拓用米	そば	なたね	野菜	花き・花木	果樹	雑穀		その他	畑地化	合計 ② ※5	
				麦	大豆	飼料作物	米粉用米	飼料用米	WCS用稲	加工用米												
1	白ねぎ作付助成	1	13,400											150							150	201,000
2	高収益作物助成	1	11,700											140				20			160	187,200
3	直売作物作付助成	1	6,500											90							90	58,500
4	エゴマ作物作付助成	1	13,400															553			553	741,020
合計(基幹)※4			実面積											380				573			953	1,187,720
合計(二毛作)※4			実面積																			

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「○○○(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「○○○(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「○○○(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 「面積」は、当初配分により支援を行う用途について記入し、追加配分により支援を行う用途については、追加配分額が未定の段階にあっては空欄としてください。

※4 「合計(基幹)の実面積」は、基幹作を対象とした設定の実面積を記入し、「合計(二毛作)の実面積」は、二毛作を対象とした設定の実面積を記入してください。

また、「合計②」欄は、基幹作、二毛作それぞれの実面積の合計を記入してください。

※5 ②の合計は、各用途の合計面積を記入してください。

※6 所要額欄の二重枠には、所要額の合計を記入してください。

(注)用途ごとに「産地交付金の活用方法の明細(個票)」を添付してください。

4. 追加配分を受けた場合の調整方法

- ①個票の参考となる単価を上限に一律に充当する。
- ②上限まで充当してもなお残余がある場合、一律に追加助成を行う。
- ③必要な場合は、次の単価調整を使用する。
単価調整係数＝活用予定額／(用途ごとの対象面積×交付単価)の合計 単価調整係数は小数点第4位以下切り捨てとする。
- ④高収益作物等拡大加算の配分があった場合は、上記の追加配分と同様に上限単価まで充当し、残余がある場合には、全ての用途に一律に配分する。

5. 所要額が配分枠を超過した場合の調整方法

- ①一律に減額する。
- ②必要な場合は、次の単価調整を使用する。
単価調整係数＝活用予定額／(用途ごとの対象面積×交付単価)の合計 単価調整係数は小数点第4位以下切り捨てとする。

6. 高収益作物について

○エゴマ
地域特産物の生産拡大に取り組み、作付の集団化と生産組織の育成及び価格の安定と販路拡大を図るため、産地交付金を活用し、作付面積を確保する。主食用米の収量単価より高単価が見込まれ、今後も安定した数量が見込まれる。
※エゴマ：収益性について別資料

注1 産地交付金で支援する作物のうち、高収益作物に該当する作物名(野菜、花き・花木、果樹除く)を記載してください。

注2 収益性のわかるデータを添付してください。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	若桜町農業再生協議会	整理番号	1			
使途名	白ねぎ作付助成					
対象作物	白ねぎ(基幹作)					
単 価	13,400円/10a (上限:20,000円/10a)					
課 題	<p>鳥取県の特産品である白ねぎは、県東部においても主要作物であり、JAいなばでは山間地域への導入、既存生産者の増反や新規に栽培に取り組む者の確保を進め、産地の拡大を図ることとしている。しかしながら、本町は山間地にあり小規模なほ場が多く、大型機械の導入が困難である。また、排水不良、台風やゲリラ豪・雪害、盛夏期の高温による病虫害発生、雑草害による品質や収量低下や、雪害による作業の困難さが課題となっている。</p> <p>JA白ねぎ部会等において、額縁明渠等の排水対策、秋冬ネギの作期拡大を実現する為の冬期の雪害回避や、台風や近年のゲリラ豪雨等による被害回避を目的とした倒伏防止の支柱の設置、雑草対策、適期防除の徹底等の技術推進を行うとともに、地域推進作物として奨励する白ねぎを作付する販売農家に対し支援する。</p> <p>出荷数量が鳥獣・雪害等の天候に左右されやすく、今後の施設整備等も課題である。</p>					
目 標		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
	作付面積	目 標	-	1.3ha	1.5ha	1.6ha
		実 績	1.1ha	1.5ha	-	-
内 容	地域推進作物として奨励する白ねぎを作付する販売農家に対し支援する。					
具体的要件	<p>○助成対象者 対象作物を作付する農家</p> <p>○助成対象作物 白ねぎ(基幹作)</p> <p>○その他要件 販売すること</p> <p>・1圃場につき1回までの助成とする</p>					
取組の 確認方法	<p>○助成対象者 対象作物を作付する農家</p> <p>○助成対象作物 白ねぎ(基幹作)</p> <p>○その他要件 販売実績、現地確認等による。</p>					
成果等の 確認方法	支払対象面積の集計					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	若桜町農業再生協議会	整理番号	2			
使途名	高収益作物助成					
対象作物	地域特産物(ブロッコリー、アスパラガス、夏だいこん、小豆、ナタ豆)(基幹作)					
単 価	11,700円/10a (上限:18,000円/10a)					
課 題	<p>本町の気象条件に適する作物としてブロッコリー、アスパラガス、夏だいこん、小豆、ナタ豆を地域特産作物に位置付け、生産拡大をブランド化を図っている。しかしながら、品目に共通する課題として、排水不良による低収の他、品目毎に技術的な課題を抱えており、面積拡大が進んでいない。課題を解決するため、品目毎のJA生産部や任意生産組織等において技術促進を行う。</p> <p>ブロッコリー:作業体系が確立していること、耕耘以外の機械作業が不要なことから、小規模・高齢化した生産者でも取組み易い品目である反面、生産地では定着している定植までの機械体系が導入されていない。また、夏場には灌水作業が不可欠なこと、予冷体制が確立されておらず早朝からの作業が必須である。</p> <p>アスパラガス:圃場整備時には深耕、堆肥の大量投入等経費・労力が多くかかる。また、未収穫期間が長いため、投資回収に時間がかかる。</p> <p>夏だいこん:夏場の高温障害等対策のための地力不足を補う対策が急務である。また連作障害回避の為に土壌消毒が不可欠であるが、効果が不十分なケースが発生しており、被覆マルチをした上での実施等、新たな技術の導入が必要である。</p> <p>小豆:連作障害や地力不足による低収が見られている。</p> <p>ナタ豆:十数年前から果樹の廃園を利用し栽培を行っており、1.5m~2.0m間隔で支柱を設置して栽培しているが、支柱の維持管理や連作障害への対策が課題である。</p>					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	-	1.8ha	1.7ha	1.9ha
		実績	1.5ha	1.6ha	-	-
内 容	若桜町の気象条件に適する地域特産作物を作付する販売農家へ支援。					
具体的要件	<ul style="list-style-type: none"> ○助成対象者 対象作物を作付する農家 ○助成対象作物 ブロッコリー、アスパラガス、夏だいこん、小豆、ナタ豆(基幹作) ○その他要件 販売すること 					
取組の確認方法	<ul style="list-style-type: none"> ○助成対象者 対象作物を作付する農家 ○助成対象作物 ブロッコリー、アスパラガス、夏だいこん、小豆、ナタ豆(基幹作) ○その他要件 ・販売実績、現地確認等による。 					
成果等の確認方法	支払対象面積の集計					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	若桜町農業再生協議会	整理番号	3			
用途名	直売作物作付助成					
対象作物	学校給食・直売所等への販売出荷のある野菜・花き・花木					
単 価	6,500円/10a (上限: 10,000円/10a)					
課 題	<p>若桜町では平成19年度に「若桜道の駅桜ん坊」を整備し、少量多品目の「朝どれ野菜」等の鮮度の高い農産物を販売し、加工品を含めた豊富な品揃えが広く支持を集めており、交流人口の増加にも寄与しているところである。また、若桜観光事業団が運営及び経営している道の駅や町内宿泊施設「氷太くん」等観光宿泊施設においても、町内産の新鮮な野菜等の供給が求められている。</p> <p>農家の高齢化が進んでいる中、これらの需要に応えるためにも、若桜町の気候で有利販売が期待でき、農家取得の向上につながる作物を、小さい規模ながらも、より一層の推進を図っていく必要がある。</p> <p>また、それらの品目の収量確保の為に、地力を増進するため堆肥利用を進める。</p> <p>昨今の消費者需要に応え、給食野菜・直売所での販売を中心に少量多品目の中でも農家所得の向上や生産者意欲にもつながる小規模農家・女性・高齢者などでも取り組みやすい直売作物として推進する。</p>					
目 標		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
	作付面積	目 標	-	1.5ha	1.1ha	1.8ha
		実 績	1.3ha	0.3ha	-	-
内 容	若桜町の気候で有利販売が期待でき、需要がある作物を作付する販売農家に作付面積に応じて助成する。					
具体的要件	<ul style="list-style-type: none"> ○助成対象者 対象作物を作付し、直売所等への販売団体に加入している農家 ○助成対象作物 対象販売作物(基幹作) ○その他要件 販売すること 					
取組の 確認方法	<ul style="list-style-type: none"> ○助成対象者 対象作物を作付し、直売所等への販売団体に加入している農家 ○助成対象作物 対象販売作物(基幹作) ○その他要件 ・販売実績、現地確認等による。 					
成果等の 確認方法	支払対象面積の集計					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	若桜町農業再生協議会	整理番号	4			
用途名	エゴマ作物作付助成					
対象作物	エゴマ					
単 価	13,400円/10a (上限:20,000円/10a)					
課 題	<p>5年前より遊休農地や転作田を利用し本格的な栽培に取り組み、産地化推進に最も力を入れている品目であるが、未だ栽培技術が確立しておらず収量が安定していない。また、収穫調整作業に多大な労力が掛かっている。</p> <p>若桜町ががんばる地域プランに沿い、新規加工施設の設立にともなって面積の拡大・作物品質の向上を推進していく。単価を上げることも視野に入れる。 作付面積拡大につながるよう栽培教室等も考え、よりよい品質の向上を目指す。</p>					
目 標		<u>2017年度</u>	<u>2018年度</u>	<u>2019年度</u>	<u>2020年度</u>	
	作付面積	目標	-	6.0ha	5.6ha	6.5ha
		実績	5.2ha	4.7ha	-	-
内 容	対象品目を栽培する販売農家に、取組面積に応じて交付金を交付する。					
具体的要件	<ul style="list-style-type: none"> ○助成対象者 対象作物を作付する農家 ○助成対象作物 エゴマ(基幹作) ○その他要件 販売すること ・1圃場につき1回までの助成とする 					
取組の 確認方法	<ul style="list-style-type: none"> ○助成対象者 対象作物を作付する農家 ○助成対象者 対象作物を作付する農家 ○その他要件 ・販売実績、現地確認等による。 					
成果等の 確認方法	支払対象面積の集計					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

(添付資料) 高収益作物 (若桜町 (エゴマ)) にかかる収益性のデータについて

10aあたり

	販売収入	経営費	所得	主食用米との比較	収益性
主食用米	129,158	107,943	21,215	1	-
若桜町(エゴマ)	120,000	76,404	43,596	2.0550	高

注) ・ データは「平成30年度農業経営指導の手引き (鳥取県農林水産部)」・

平成29年「若桜町がんばる地域プラン」から抜粋。

- ・ 主食用米データは「水稻 (稚苗移植) 県下全域平坦～中山間」を使用。
- ・ 収入には経営所得安定対策等の交付金等は含まない。

【高収益作物 資料】若桜エゴマの年間農作業体系

技術体系

作物名	品種	栽培様式・作型	10a当たり収量	ほ場条件	作付面積
エゴマ	若桜町在来種	機械化作業体系	50kg	汎用化水田	50a

作業名	作業期間	使用資材名	使用量	作業機名	作業方法	機械利用時間	人員	延労働時間	燃料消費量
土壌改良資材散布	4/上～中	苦土石灰 or カキガラ石灰	60kg	トラクター ブロードキャスター		0.1	2	0.2	軽油0.2
元肥散布	5/下～6/上	発酵鶏糞	150kg	ブロードキャスター		0.2	2	0.4	軽油0.4
耕起・整地	5/下～6/上 6/中～6/下			トラクター・ローター	耕耘・碎土	0.5	1	0.6	軽油2.3
				トラクター・ローター	耕耘・畝たて	1	1	1.2	軽油4.5
播種	5/下～6/上	種子 セルトレイ(200穴) セル育苗用培土 パーミキュライト 水稻育苗箱	50g 20枚 120リットル 30リットル 20箱	播種機「エコ播つく」	ハウスorトンネル		1	5	
育苗管理	5/下～6/下			かん水	適宜		1	2	
定植 病害虫防除	6/中～6/下	ネキリエース	3kg	全自動野菜移植機	委託 株元散布		1	0.5 1	
中耕・培土	7/中 8/中			管理機		1	1	1.2	ガソリン2.3
				管理機		1	1	1.2	ガソリン2.3
畦畔草刈	随時			草刈機		1.7	1	2.4	混合油3.4
収穫	10/中～10/下			普通型コンバイン	委託			0.3	
運搬	10/中～10/下			軽トラック		0.3	1	0.3	ガソリン0.2
乾燥調製	10/中～11/上			ビニールハウス	委託			0.3	
								16.6	

軽油 7.4 950円
 ガソリン 4.8 700円
 混合油 3.4 500円
 2,150円

【高収益 資料2】若桜エゴマの経営試算(10a当たり) *一部栽培機械化・増収技術導入後の想定試算

区分	科目	金額	説明	
粗収益	主産物価額③	120,000	主産物価額① 生産量① 50 kg 単価②: 2,400 円/kg	
	主産物価額	0	主産物価額② 生産量 単価:	
	主産物価額	0	主産物価額③ 生産量 単価:	
	副産物価額④	0		
	計 (A)	120,000		
生 産	種 苗 費	120	50g	
	肥 料 費	3,800	使用資材等は技術体系のとおり	
	農 薬 費	2,205	〃	
	諸 材 料 費	10,000	〃	
	動力光熱費	2,150		
	農 具 費	5,129	機械負担価額×4%	
	建物等修繕費	1,000	建物・構築物負担価額×1%	
	賃 料 料 金	10,000		
	共 済 掛 金	0		
	雇 用 労 賃	0		
	減価償却費⑤	30,000		
	土地改良費	5,000		
	支払地代⑥	0		
	小計 (B)	69,404		
費	販売費一般	出荷資材費	500	
	管理費	販 売 諸 費	0	
		諸税負担金	3,000	農協賦課金、車検料、固定資産税
		事務研修費	3,500	農業新聞購読料、電話代
		支払利息⑦	0	
小計 (C)	7,000			
経 営 費 (D)	76,404	注) (D) = (B) + (C)		
家族労働費見積額 ⑧	21,580	農 従 労 働 時 間 : 16.6 1,300 円/時間		
支払利子・地代算入生産費(E)	97,984	主産物単位当たり 817 円/kg 注) (E) = (D) + ⑧ - ④		
自己資本	流動資本利子⑨	1,360	注) ⑨ = ((E) - ⑤ - ⑦) / 2 × 0.04	
利子(F)	固定資本利子	0	利率率4%	
自 作 地 地 代 (G)	0			
全算入生産費 (H)	99,344	生産物単位当たり 828 円/kg 注) (H) = (E) + (F) + (G)		
所 得 (I)	43,596	時間当たり 0 円 注) (I) = (A) - (D)		
所 得 率 (J)	36	注) (J) = (I) ÷ (A) × 100		

001	水稲（稚苗移植）
-----	----------

1 前提

該当する地域	県下全域 平坦～中山間
設定した経営規模	水稲（主食用米）120 a、水稲（飼料用米）30a、白ねぎ（秋冬）50a
自家労働	2.5 人
その他	①作付体系 1年1作 ②中型機械化体系 ③田植機、コンバインは共有 ④自家育苗、乾燥調製はカントリーエレベーターまたはライスセンター利用

2 作付体系

年次	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
各年次		○………… ◎—————□□□											

凡例：○播種、……育苗期間、△仮植、◎移植・定植、△ハウス、∩トンネル、——栽培期間、□収穫

3 施設機械装備

但し R = (1 - 残存割合) (単位：円)

種類	構造能力	面積 台数	取得価額	本作目 負担率	負担価額 (A)	償却額 (B) (A) × R	耐用 年数 (C)	年償却額 (D) (B) ÷ (C)	経過 年数 (E)	期首現在 価額 (F) (A) - (D) × (E)	自己資本 割合 (G)	自己資本 利子 (F) × (G) × 利率
農具舎	木造瓦	50 m ²	3,400,000	30	1,020,000	1,020,000	15	68,000	8	475,999	50	9,520
トラクタ	22ps	1.0 台	2,041,200	60	1,224,720	1,224,720	7	174,960	4	524,880	50	10,498
ロータリ	160cm	1.0 台	561,750	60	337,050	337,050	7	48,150	4	144,450	50	2,889
乗用型田植機	4条植	0.1 台	113,400	100	113,400	113,400	7	16,200	4	48,600	50	972
動力散布機	26 ^{リットル} 背負	1.0 台	105,000	100	105,000	105,000	7	15,000	4	45,000	50	900
刈払い機	肩掛け式	1 台	50,000	50	25,000	25,000	7	3,572	4	10,714	50	214
自脱型コンバイン	3条刈	0.1	380,160	100	380,160	380,160	7	54,309	4	162,924	50	3,259
播種機	100箱/時	0.1 台	22,100	100	22,100	22,100	7	3,157	4	9,472	50	189
灌水用装置		1	177,000	40	70,800	70,800	7	10,114	4	30,342	50	607
軽トラック	660cc	1 台	1,050,000	30	315,000	315,000	4	78,750	2	157,500	50	3,150
合計			7,900,610		3,613,230	3,613,230		472,212		1,609,882		32,198

4 技術体系 (10a 当たり)

作物名	品 種	栽培様式・作型	10a 当たり収量	ほ 場 条 件	作付面積
水 稻	きぬむすめ	稚苗機械移植	600kg	15～30a 区画 汎用化水田	120a

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準					燃 料 消費量 (% / 10a)
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	10a 当たり作業時間			
						機械利 用時間	組 人員	延労働 時 間	
種 子 予 措	4/中	種子	2.4kg		○水浸漬は種子体積の2～3倍の水で10～12日間行う。 ○催芽は、30～35℃の湯で鳩胸まで行う。		1	0.5	
苗 床 準 備	4/下			トラクタ	○苗置き床を耕耘・整地する。	0.2	1	0.3	軽油 0.2
播 種	4/下	グリーンソイル 育苗箱	64kg 16箱	播種機	○購入土を用いる。 ○播種量は乾籾で箱当たり150g。 ○播種後は平置きにし、育苗シートで被覆する。	0.2	3	1.5	
育 苗 管 理	4/下～5/下						1	4.0	
土 壌 改 良 材 散 布	4/下	苦土重焼燐	15kg	動力散布機		0.4	1	0.6	混合油 0.6
耕 転	4/下、5/中			トラクタ	○2度行き、深さ15cm程度とする	1.4	1	1.7	軽油 7.0
畦シート張り	5/上	畦シート	90m		○圃場の水持ちに応じて敷設する。		2	2.0	
代 か き	5/中			トラクタ	○あまり土を練らないようにする。	0.7	1	1.0	軽油 3.0
田 植 え (含む苗運搬)	5/下	アグリサポート444	32kg	田植機 軽トラック	○2.0～2.5葉の苗を移植する。 一株苗数3～4本、㎡当たり18株程度とする。 側状施肥。(慣行施肥の8割) 田植同時処理	1.0	3	3.0	ガソリン 1.8
除 草 剤 散 布	5/下	月光1粒剤	1kg	こまきちゃん					
穂 肥 散 布	7/下、8/上	アグリNK520	35kg	動力散布機	○出穂25日前、15日前に20kg、15kgを目安とし施用する。	0.3	1	0.5	混合油 0.3
畦 畔 草 刈 り	5/上～9/中			草刈り機	○4回程度刈る。	1.5	1	1.8	混合油 2.4
病 害 虫 防 除	5/下 8/中 8/下	Dr.ホセリン粒剤100.8kg トレバリダピーム粉剤4kg トレボン粉剤4kg		動力散布機 動力散布機	○いもち病、イネヌズカムシなど対象 ○いもち病、紋枯れ病、ウカ類など対象 ○カメムシウカ類など対象		1 2	0.3 0.4	混合油 0.2
水 管 理	5/下～9/中			軽トラック			1	8.9	ガソリン 2.0
収 穫 ・ 籾 運 搬	10/上	グレインバッグ		自脱型コンバイン 軽トラック		0.5	2	1.6	軽油 3.5 ガソリン 0.9
合 計								28.1	

5 経営試算(10a当たり)

区分	科目	金額	説明
粗収益	主産物価額③	127,200	きぬむすめ生産量①： 600 kg 単価②： 212 円/kg
	主産物価額	0	生産量： kg 単価： 円/kg
	主産物価額	0	生産量： 単価：
	副産物価額④	1,958	
	計 (A)	129,158	
生産原価	種 苗 費	1,510	
	肥 料 費	6,362	使用資材等は技術体系のとおり
	農 薬 費	10,126	〃
	諸 材 料 費	2,039	〃
	動力光熱費	3,721	
	農 具 費	8,714	機械負担価額×4%
	建物等修繕費	850	建物・構築物負担価額×1%
	賃 料 料 金	15,000	
	共 済 掛 金	140	
	雇 用 労 賃	8,303	
	減価償却費⑤	39,351	別表のとおり
	土地改良費	1,806	
	支払地代⑥	458	
	小計 (B)	98,379	
販売費一般	出荷資材費	1,620	
	販 売 諸 費	540	
	諸税負担金	4,179	農協賦課金、車検料、固定資産税
	事務研修費	1,883	農業新聞購読料、電話代
	支払利息⑦	1,342	借入資本利率2%
	小計 (C)	9,563	
経 営 費 (D)	107,943	注) (D) = (B) + (C)	
家族労働費見積額 ⑧	24,960	農 従 労 働 時 間： 18.9 生産管理労働時間 0.3 1,300 円/時間	
支払利子・地代算入生産費(E)	130,945	主産物単位当たり 13,094 円/60kg 注) (E) = (D) +⑧-④	
自己資本	流動資本利子⑨	1,805	注) ⑨= ((E)-⑤-⑦) / 2 × 0.04
利子(F)	固定資本利子	2,683	利率4%
自 作 地 地 代 (G)	5,042		
全算入生産費 (H)	140,475	生産物単位当たり 14,047 円/60kg 注) (H) = (E) + (F) + (G)	
所 得 (I)	21,215	時間当たり 1,105 円 注) (I) = (A) - (D)	
所 得 率 (J)	16	注) (J) = (I) ÷ (A) × 100	
農企業利潤 (K)	-13,275	注) (K) =③- (H)	
家族労働報酬 (L)	11,685	時間当たり 609 円 注) (L) = (I) - (F) - (G)	
農業資本利潤 (M)	-3,745	注) (M) = (I) -⑧	

6 労働の作業別、旬別配分(10a当たり時間)

月・旬 作業名	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			計				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
畦シート張り												2.0																												2.0	
種子予措											0.5																														0.5
苗床準備、播種												1.8																													1.8
育苗管理												2.0	1.0	1.0																											4.0
土壌改良材散布												0.6																													0.6
耕耘												0.9	0.8																												1.7
代かき													1.0																												1.0
田植え除草剤同時散布)																																									3.0
穂肥散布																																									0.5
草刈り																																									1.8
病虫害防除																																									0.7
水管理																																									8.9
刈り取り・糞運搬																																									1.6
																																									0.0
																																									0.0
																																									0.0
																																									0.0
																																									0.0
																																									0.0
																																									0.0
																																									0.0
																																									0.0
																																									0.0
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	5.3	3.0	3.4	4.5	1.5	1.0	1.5	1.0	0.5	0.8	1.2	0.7	0.7	0.2	0.2	0.5	0.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.1	

生産管理労働時間

(0.3)